



(財)三重こどもわかもの育成財団 機関誌

～親子で話そう 今日の出来事 一日一回!～

第
115
号

2006

平成18年6月発行

わかすぎ

「家庭の日」絵画・ポスター作品

児童の部



「どうぶつえんにいったよ」

桑名市立伊曾島小学校2年 大西 華歩さん



「ぬくもりのある家庭」

松阪市立中原小学校6年 橋爪 理衣さん

生徒の部



「休日は家族とすごそう」

松阪市立嬉野中学校3年 玉置 里佳さん



INDEX

02 大人への道
進め! 若者たち

04 平成18年度事業計画
青少年育成指導者のための
通信教育受講生募集中

06 青少年育成調査研究事業
結果の速報

07 わかすぎ時評 ①
編集後記

(編集発行)

(財)三重こどもわかもの育成財団

〒515-0054 三重県松阪市立野町1291
中部台運動公園内

TEL: 0598-22-4911

FAX: 0598-23-7792

URL: <http://www.mie-cc.or.jp>

※毎月第3日曜日は、「家庭の日」です!



進め！若者たち

伊賀市別府に位置する愛農学園では3000坪の敷地内に、55名（内女子生徒15名）の高校生たちが寮生活をしながら農業と畜産を通して食農を学んでいます。「農業の持っている教育力は、土の力を学ぶことだ」と志賀親則校長はおっしゃいます。農業や環境の勉強を目標に入学した生徒たちは卒業時の農業への就農率は0%ですが、99%の生徒は大学進学、そして、卒業の4年後には45%が就農します。就農しなかった卒業生は海外へ留学したり、大学院へ進学して土壌学などを学んでいます。



訪問した日は、全校挙げての田植えの日で、戻ってきた生徒たちは明るく挨拶をしてくれました。その瞬間不思議です、私の心は快活なおばさんモードになっていました。

Q：皆さんの高校生活を紹介していただきたいので、よろしくお願いします。

Aさん：2年生です。今は酪農部。牛の世話です。動物が好きだったので、養鶏部と養豚部と酪農がまず選択肢にあって、養鶏部は飼ってる数が多すぎて、動物と付き合うなかで、名前が無いと覚えられないのが嫌だったので、牛です。

養豚はだいたい1年位ですぐに出荷してしまうということであまり「なつく」とかそういうのがなくて、そう考えた時に牛とのコミュニケーションが、動物とのコミュニケーションで長く付き合えるので、酪農部へ入りたいなと思いました。

Q：酪農部は具体的にはどういうことをなさるんですか？

Aさん：2つのグループに分かれていて、男子の方は力があるので餌やりを、女子は搾乳って言って乳搾りを、1日2回決まった時間にしています。

Q：乳搾りをして、それをみんなで夕食の時に飲むのですか？

Aさん：はい、すぐ食卓に出ます。朝搾ったのが夕方に。おいしい！

Q：1年生の時に酪農部に入る前の牛乳の味と、自分で搾った味はどうですか？

Aさん：よく飲むようになりました。おいしいってのもありますが、前は全然飲まなかったです。今はずっと牛乳。

牛は出産した時が一番かわいいですよ。酪農部になった人は自分で牛の名前をつけることができるんです。でも私が名前を付けた牛はまだいない。

Q：お父さん、お母さんに飲んでもらいたい？

Aさん：はい。たまに夏休みとかにペットボトルにつめて持って帰ります。「おいしい」って言ってくれます。

Q : うれしいね。

Aさん : はい。私は動物にかかわっていけるような仕事がしたいんです。

Q : 小さい頃からそういう夢があったんですか？

Aさん : 動物は小さい頃からずっと好きで、馬がずっと好きだったので馬術の方をしようと思っていたんですけど、世話する方もいいなと思って、最初から酪農部に入りたくて、愛農学園に入りました。

Q : じゃ、お父さん、お母さんもそういう仕事をなさっているの？

Aさん : まったく関係ないんです。

Bさん : 僕も今、酪農部です。父と兄がここのOBで、それで愛農学園を知るきっかけになって、体験入学で決めました。父は瀬戸内海の島で農業と漁業、半農半漁で、外に出れば海があるし、すぐ上に行けば山があるっていう環境なんで、僕はその地形っていうか、島の環境を利用して自給的農業の生活をしようかな、みたいなことを考えています。島はみかんが特産で、家で果樹園もやっています。島での農業では野菜とかもおいしいと思います。

Q : 酪農部と言うことは動物との付き合いは？

Bさん : 家で牛を飼って、犬も、鶏も、そんな感じで動物とは離れない生活してきたので。

Aさん : 男子は力があるから餌やり。

Bさん : 1回、乳搾りをやってみたくて、最近になって女子の方が1人少ないので、男子が時々、僕は搾乳をならって、今やっています。朝は5時起きで……

今は夢っていうか、将来は家に帰って父の仕事を継ごうと思っています。



Q : 鶏を飼っているということは……

Bさん : 最初は解体とか嫌だったんだけど、慣れてくるにしたがって、2時間の解体実習はたいい時間内に終わるんですよ。

校長 : 解体するまでは命が尊いとか実感ないからね。ところが動物の解体をやった次からね、自分は生きてると思っていたが、生かされているんだと実感するのね。残飯は全然出ないですよ。キウイの皮だとか、セミノールの皮くらい。そのくらい生徒はきちっと食べます。これはね、本当に食べ物に対する感謝の気持ちですよ。自分が生産する体験をするってことは、食育ではなく食農ね。食農教育は人間教育にとっても役立っています。

Bさん : はい。

Cさん : 私は中学の時はずっと部活、部活だったんですけど、引退してから休みの日はゴロゴロ。愛農でちょっと挑戦してみようかな、自立ができればいいなって思って。今はニュージーランドとかへ留学したいと思って英語も頑張ってます。

あとがき 愛農学園では農業や畜産の授業を通して、日常的に『命あるものとの時間の共有』が基本としてあります。米、野菜、果樹、鳥、豚、牛など『命あるものの将来』を描きながら暮らしている若者とのインタビューで教えられたことは、日々の勤勉な実践を通した学びが努力の成果だけではなく、日照不足や台風、稲や牛の病気など予想しがたい、『人間の力ではどうしようもできない成り行きとの学び』もあることを学んでいるようでした。彼らは机の上での勉強と実践での勉強から自分を新しく“つくり出す”手ごたえを確かに掴んでいるようです。2005年に「第6回 明日への環境賞（朝日新聞社）」を受賞しています。

(文責 中西智子)

平成18年度事業計画

(財)三重こどもわがもの育成財団 青少年育成グループ

- 「三重県青少年育成交流会」は、前年度に引き続き三重県総合文化センターの「M祭」において、8月6日(日)に開催します。平成18年度は子どもや青少年の取り組みを主体としたイベントを中心に実施する予定です。
- 「地域活動支援事業」は市町民会議を核に、より多くの青少年・住民・青少年関係団体等と連携・協働して実施する地域の青少年育成事業や運動に対して助成します。昨年度は13件助成しました。昨年度の報告事例を一部紹介します。

松阪子どもセンター

自転車乗りスクールやプロライダーの模範演技を見学し、ただ乗るだけでなく、自転車のマナー等や修理の仕方講習により自転車への意識を変えることができました。さらに木のおもちゃづくりや、環境クイズで環境問題や森林知識を学習させ意識を高めました。地域の大人たちが子どもたちと関わり、居場所を提供していく中で、子どもたちは大人から集団行事でのマナーなど様々な事を学ぶ機会となり、社会性を養うことにつながりました。

- 「市町村民会議活性化事業」は市町村民会議が実施する市町村合併に伴う課題、問題点等を協議調整する事業に対して助成します(旧市町村単位で最高15万円)。市町村合併に該当しない市町村民会議につきましては青少年育成に関わる研修会等にご活用いただくこともできます。当事業は1年延長し、平成18年度までとしますので成果のあがる研修をお願いします。16年度は2件、17年度は8件助成しました。昨年度の報告事例を一部紹介します。

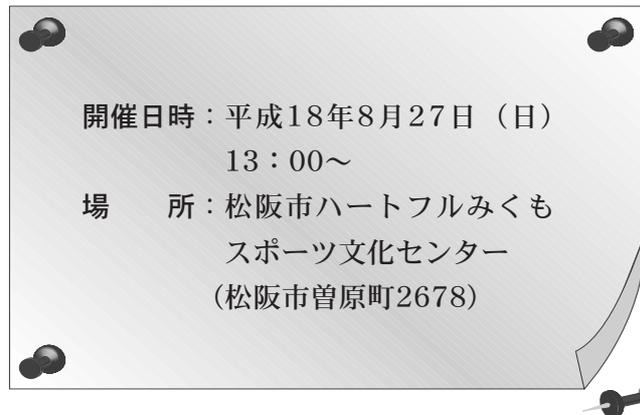
亀山市青少年育成市民会議

関町・亀山市との行政合併に伴い新亀山市青少年育成市民会議を設立するにあたり、それぞれの市・町で行われてきた青少年育成活動を新たに考え直していくためには、お互いの良い部分を取り入れていくことが大切であり、そのことをいかにして新市の住民に理解してもらえるかを課題としました。特に旧亀山市青少年育成市民会議は、市内各戸から協力金として100円徴収していたのでそのことを旧関町の住民に理解してもらえるかどうかを会議の中で幾度も検討しました。結論としてはそのことをわかりやすいリーフレットに掲載し、旧関町の住民に理解してもらうこととしました。作成したリーフレットを各戸配布することにより、活動内容がより理解されると考えています。

- 「地域活動者研修会」は、育成財団が市町民会議連絡協議会へ助成します。国民会議からの助成事業は、育成財団が「青少年指導者のためのスキルアップ講習会」として実施します。
- 県の機構改革による県民局の廃止などに伴い、育成財団と市町民会議との直接的かつ速やかな連携を強化するため、電子メールによる連絡網の整備を行います。
- 「連絡協議会運営費交付事業」は、市町民会議連絡協議会が行う相互の情報交換と協力、連携を図るための経費を助成します。
- 三重県からの委託事業「青少年の生き生き創造力活用事業」は、高校生を中心として活躍し、創造的な活動をする団体に対して支援します。

- 「福祉車両(育成号)」は、平成18年1月に新しくなりました。これは、宝くじ協会からの助成によるもので、国民会議から当財団が管理委託をまかされています。貸出等の詳細については、当育成財団までお問い合わせください。リフト付車両ですので車椅子の搬送もできます。

- 「少年の主張三重県大会」は、中学生が日ごろ感じていることや考えていることを発表し、広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として実施します。中学生の熱い主張に期待してください。



平成17年度は、最優秀者の名張市立赤目中学校の西嶋和也さんが中部・近畿地区の選考を経て全国大会に出場しました。

平成19年度からの少年の主張三重県大会の開催場所	
平成19年度	四日市地区（四日市市・菰野町・朝日町・川越町）
平成20年度	南勢・志摩地区（伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会町・玉城町・大紀町・南伊勢町）
平成21年度	津地区（津市）
平成22年度	鈴鹿・亀山地区（鈴鹿市・亀山市）
平成23年度	伊賀地区（伊賀市・名張市）
平成24年度	松阪地区（松阪市・明和町・多気町・大台町）
平成25年度	紀北地区（尾鷲市・紀北町）
平成26年度	桑名地区（いなべ市・東員町・木曾岬町・桑名市）
平成27年度	紀南地区（熊野市・御浜町・紀宝町）

青少年育成指導者のための通信教育受講生募集中

（社）青少年育成国民会議が実施する、地域の青少年育成のボランティア指導者を養成するための2年間の通信教育講座で、テキストによる学習のほか、集合宿泊研修、レポートの提出により、総合的な知識を身につけることができます。

現在全国で、この通信教育を終了した約3,000名が「青少年育成アドバイザー」として認定されています。

- 募集期間** 平成18年3月～9月
- 受講資格** 広く青少年に関わる活動や仕事をしている人（概ね30歳～65歳くらいまでの方）
- 受講料** 25,000円（2年分）
 なお、「集合研修」（3泊4日のスクーリング）の参加費（30,000円程度）は別途かかります。

当財団では、受講料・研修参加費・研修参加に要した交通費の2/3にあたる額を予算の範囲内で助成する制度があります。詳しくは当財団までお問い合わせください。

青少年育成調査研究事業結果の速報

小学生と中学生の挨拶などに関する調査（中間報告の概要）

三重県青少年育成アドバイザー研究会

松阪市教育委員会の協力を得て、松阪市内の小学5年生と中学2年生の子どもたちを対象に、平成18年2月、親子の対話・近所の人たちへの挨拶・将来の仕事への希望などについて調査をしました。調査対象は小学5年生は1,264人、中学2年生は1,193人。現在、市内を中心街・郊外・山間部の3地域に分け、比較分析を行っています。詳細は次号で掲載予定です。

☆ 兄弟姉妹は2～3人が最も多い

兄弟姉妹がいると答えたのは2人兄弟姉妹（約6割）と3人兄弟姉妹（約3割）で、2～3人の兄弟姉妹は9割となります。

☆ 自らする挨拶は中学生になると減るが、受けた挨拶には小学生も中学生も挨拶を返す。

挨拶する習慣の問いには「おはよう、行ってきます、ただいま、おやすみなさい」などの挨拶は、小学生では8割強の子どもが言っていますが、中学生では6割です。近所の人へ「こんにちは」の挨拶は、よく知っている人にはする、知らない人でも挨拶をされた時はする、を合わせると小学生・中学生ともに9割の子どもが挨拶をしています。

☆ 家族での会話は母親が最も話しやすい

家の人へ「ありがとう」と言う小学生は8割、中学生では7割でした。家の人に褒められたり、「ありがとう」と感謝されたりする小学生は8割、中学生は6割でした。



家庭の会話として「うれしかったこと、楽しかったこと」を話したい時、又、学校や友達、勉強のことで「どうしようか・・・、とてもこまったな・・・」と思った時には誰に話したり、話を聞いてもらったりしたいですかの問いには、母親が一番多いが、中学生になると家族以外との会話が増える傾向があります。

☆ 将来への仕事の夢は、小学生は家族や友人へ話す機会の差は少ないが、中学生では家族より友人へ話す機会が多くなる。

「大人になったら、どんな仕事をしてみたいですか」の問いでは、小学生で7割・中学生で6割が将来の仕事への思いをもっています。そのうち、誰かに話したことがある小学生は6割、中学では5割です。誰に話したかの問いには、小学生は家族へ3割、家族以外の人へ3割ですが、中学生では家族へ2割弱・家族以外の人へ4割でした。

☆ 家族の人は仕事の話をしてくれる

「家族の人が仕事の話をしてくれますか」の問いでは、毎日話す・話すことが多いの回答を合わせると、小学生は5割で、中学生では4割でした。

家族や地域の人への挨拶では、「あいさつ運動」などの効果が表れていると推測されます。また、家庭での会話に関する調査から、中学生の年頃では親離れから友人関係へ移行する時期のように思われます。一般的には、松阪市内の親子関係の良好さが伺えました。

仕事に関する子どもたちの気持ちとしては、親との会話からの情報や職場体験などから得た手ごたえ、そして、身近な人たちの仕事への姿勢を、子どもたちは見ていると思われます。大人からの影響力、マスコミなどの影響力もあるかと推測されますが、家族の日常会話から“人としての生き方”の充実度が育ち、それが生活基盤になるのではないかと考えています。

(中西智子 / 伊藤公一)



今回から、新しく“わかすぎ 時評”が登場します。

“わかすぎ 時評”では、青少年育成に関するその時々話題や評判になっていることなどを提供し、読者の方々から届いた地域での話題やご意見を紹介します。お気づきのこと、ご感想を事務局へお寄せください。お待ちしております。

事務局：(財)三重こどもわかもの育成財団 青少年育成グループ

住所 515-0054 松阪市立野町1291 中部台運動公園内

TEL 0598-22-4911 / FAX 0598-23-7792

地域での大きな課題『不審者対策』

皆さんは、子どもが「んっ誰?」「怪しい!」と感じる人を見た場合の対応は、どのように指導をしていますか。例えば、学校へ侵入した不審者に対していかがでしょうか。警察へ連絡すると同時に不審者に対して役立つのは、●飛び道具のようなクモの巣状の網を発射するネットランチャー ●催涙スプレー(水戸市では噴射距離が9メートルもある催涙スプレーを導入) ●捕獲網 ●警杖 ●刺又(さすまた)などが用意されていることでしょうか。大分市では、●警報用通信機器を学校へ設置したとのこと。

防犯カメラを設置する学校、校門を施錠する学校もあります。校門の施錠に対しては「地域との交流が心配」との戸惑いもあるようです。「学校・保護者・地域の連携が大切」と、防犯・不審者対策のチラシなどで地域の人たちへ協力をお願いする教育委員会もあります。

とても大切な事に気付いた人の声が届きました。「防犯パトロールをすることで、今まで親しく話す機会が無かった大人同士も顔見知りになった。」という地域の声です。皆さんの地域ではいかがでしょうか。

最も古典的な意見かもしれませんが、基本的には多くの人たちが地域へ“気配り・目配り”を心がけて、子どもや高齢者など弱者の立場の人を見守り、“地域住民の眼力”で不審者を近づけない地域にすることが一番であり、またこれを続けることが、大切だと思います。



「大声が一番」 津警察署の生活安全課でお話を伺いました。

どれも対策としては良いことです。催涙スプレーは女性ならカバンに入る程度の小型のものを持ち歩くと痴漢対策になります。やはりすぐに使えるからこそ役立ちます。捕獲網と警杖は使いこなせるようになるまで練習が必要です。特に、警杖は相手に奪われると相手の武器になる恐れがありますから、繰り返して練習をしてください。

みなさま方に一番に心がけていただきたいことは、何かあったら、すぐに大声を出すことです。大声を出す習慣をつけていただきたいのです。不審者へ「この子はしっかりしている子だ」と認識させることが最も効果的です。

例えば、知っている人へは挨拶をしますね。しかし、もし、知らない人から声をかけられた場合でも、無視して通り過ぎるのではなく、大きな声で挨拶を返して、そのままスーッと行き過ぎることが一番効果的です。声を出さないと引き込まれることがありますから、声を出すことです。大きな声です。「ギャー」の一声でも良い。不審者は捕まりたくないのに、大声を出した人からは逃げ出します。これは、子どもだけではなく大人でも一緒です。そばに助けてくれる人がいなくても、何も持っていなくても、不審者に対しては、まず、大声を出すことです。



『学校との連携が一番』中勢少年サポートセンターでお話を伺いました。

私たちの仕事は ◇補導活動 ◇少年相談 ◇被害少年などの支援・保護 ◇広報啓発活動 です。

補導活動は、子どもがいるところへ出かけることから始まります。たとえば、今の子どもたちは外だと繁華街で見かけます。あとは誰かの家へ集まっているようですが、この場合、補導活動は、私たちには難しいですね。補導した子どもへは継続的に指導、支援をします。少年相談は99%が親からの相談です。被害少年などの支援・保護は必要となれば臨床心理士などの専門家にも相談できますが、実際には保護者と話し合うことが多いのです。学校との連携では、何かあった場合に少年サポートセンターが前面に出て、子どもとの信頼関係を築きながら、子どもの生活環境に配慮して指導・支援をします。

『不審者対策』としては毎年すべての小学校の1年生を対象に、1学期中に「誘拐防止教室」を実施します。子どもにわかりやすく、寸劇で説明しています。中勢地域では、6年生を対象に2学期中に「非行防止教室」を実施します。『不審者対策』では、生活安全課も幼稚園・保育所、学校の教職員を対象に子どもたちが被害にあわないための訓練を実施しています。

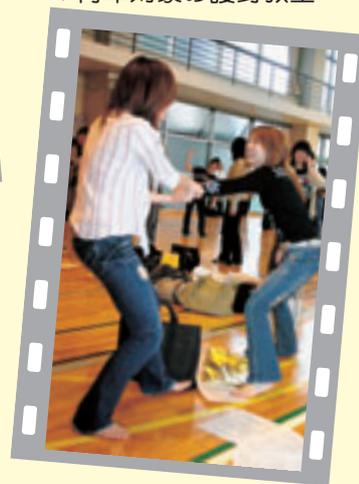
▼小学生対象の指導



津市立黒田小学校提供



▼青年対象の護身教室



中日新聞社津支局提供

編集後記

家にあるインターネットで安易にゲームや音楽を楽しみ、何でも調べられるから便利だと思うのは、大人も子どもも同じです。生活から切り離せなくなった新しいメディアを自在に使いこなす子どもたちの姿は珍しくありません。子どもたちへ「大切なことは、“実在の、現実の人”と“メディアを間に立てての人”との繋がりは同じではないのですよ。」と伝えながら、子ども自身から身の回りへの関心を深める必要がある現在のようです。

『わかすぎ』編集長 中西 智子